

Kaiko-St. MAP

開港通り

お散歩MAP

異国情緒溢れる景色を眺めながら、散策を楽しもう

- 電車道
- 市電・電停
- 喫茶・休憩
- 食事処
- おみやげ・売店
- 宿泊施設
- 金融機関

I 日本最古のコンクリート電柱
 1923年に耐火建築として建てられた電柱は、現存するコンクリート電柱では日本最古のもので、高さ10Mの珍しい角錐形をしています。

開港通りとは？
 2016年3月26日に開業する北海道新幹線「新函館北斗駅」。ここからアクセス列車に乗って「函館」を訪れるお客様を最初に迎える「朝市～ベイエリア」へと続く通りは、函館の第一印象を決める重要な道。この通りが、多くの旅行者や市民が往来する活気あふれる道になってほしいという想いを込めて、函館市民から愛称を募集。全511点の応募作品の中から愛称を平成26年4月に「開港通り」に決定し、7月1日の開港記念日に命名式を行いました。函館らしさあふれる「開港通り」の散策を楽しんでください。



ここから
二十間坂

H ベイエリア
 金森赤レンガ倉庫群やほこだて明治館など、歴史的な建物の一部をレストランや土産品店等に活用されている観光スポットです。

G ほこだて明治館
 明治44年に函館郵便局として建てられ、昭和37年まで使用されていました。レンガ壁の外観、半円形のアーチ窓、正面破風部分の装飾などが特徴で、現在はショッピングモールとして活用されています。

D 大手町ハウス
 棟札から棟梁は村木甚三郎氏です。大正8年頃に旧浅野セメント社屋として建てられ、その後、旧北海道漁業公社として親しまれた建物を創建当時の姿に忠実に復元した擬洋風建築です。

A 函館朝市エリア
 約250軒の店がひしめきあう。旬の魚介類や野菜、果物、乾物、菓子など北海道の味が集まります。

B 東雲広路
 函館は数度の大火に遭遇したことにより道路そのものが防火線の役割を担うようになっており、東雲広路は、昭和9年の函館大火の後に、防災を目的に設置された横幅55Mの道路です。

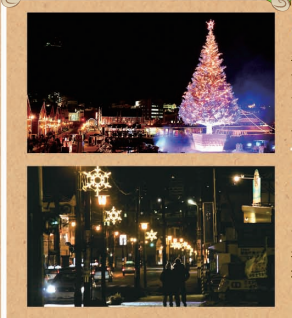
C ニチロビル
 北洋漁業で栄えた函館を象徴する建物のひとつで、昭和初期に建設されました。

E 倉
 建造年不詳。1934年(昭和9年)の函館大火で焼け残った倉。現若松町から移設されました。

F 豊川稲荷神社
 文久年間(1861～1864)に付近の繁栄を願って有志が創立。現在の神社は昭和15年に建てられました。

EVENT INFORMATION

イベント情報



はこだてクリスマスファンタジー
 毎年12月に開催されるイベントでカナダハリファックス市から贈られる高さ約20Mの巨大もみの木が金森赤レンガ倉庫前海上に設置されます。期間中は毎日18時よりイルミネーションの点灯と花火の競演による点灯式が開催されます。(H27年11月28日～12月25日)

はこだてイルミネーション
 「光に包まれた愛の街・函館」をテーマに函館市内が多数のイルミネーションで彩られます。開港通り沿いにもイルミネーションが設置され、冬の澄んだ空気の中、イルミネーションで彩られた異国情緒あふれる街並みをご覧ください。(H27年11月28日～H28年3月31日)
 ■開催場所: 開港通り、二十間坂、八幡坂ほか

開港通りにまつわるおはなし



金森・倉庫業のおはなし
 初代渡邊熊四郎氏、1887年(明治20)函館初の営業倉庫を開始。1890年(明治23)には、海運隆盛の動きに比例して預かり貨物量が增大し、年を追うごとに増す荷物に対応するため拡張しました。

函館朝市のおはなし
 1945年(昭和20)、函館駅前広場の隅において周辺の農業生産者により野菜の立ち売りが始まりました。場所の移転などがあり、1956年(昭和31)現在地に生産者が1997㎡の土地を所有しました。

北海道鉄道のおはなし
 1902年(明治35)「函館一本郷」開通(現在の函館駅は1904年(明治37)開業)、1903年(明治36年)森、大沼まで延伸しました。

ニチロのおはなし
 1906年(明治39)、北洋のサケ・マス漁を目的とした堤商会(旧ニチロの前身)が設立されました。1921年(大正10年)近隣の漁業会社と合併し日魯漁業(株)を発足、本社を東京へ。1932年(昭和7年)ニチロビル2号館(現在の建物)を竣工しました。

※【函館市史】を参考
 制作／(一社)函館国際観光コンベンション協会